

Title	カントリーリスク管理 - イラン, イラク進出企業を中心に -
Sub Title	
Author	植松知子(Uematsu, Tomoko) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1986
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1986年度経営学 第457号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001986-0457">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001986-0457</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 植松知子

主査 小林規威

副査 奥村昭博

所属ゼミナール 小林規威研

青井倫一

## カンントリーリスク管理 —イラン・イラク進出企業を中心に—

本研究の目的は、カンントリーリスクがますます増大している環境の下で、海外活動を展開している日本企業を対象とし、一体、彼らのカンントリーリスク管理はどうなっているのか、問題は何か、そして将来の管理はいかにあるべきかということを解明するところにおかれている。

この研究の目的に沿って、私は、近年典型的なカンントリーリスクの発生を経験している、イラン、又はイラクを対象とし、そこで日本の進出企業が、いかに、又、どういう体制で、カンントリーリスクの予知・評価を行ない、更に、その評価結果の意志決定への結びつけを行なっているのかについて、リスク発生以前と以降に分けて調査し、検討を行なった。

本論文は、カンントリーリスク管理全般についての文献研究を行なった第Ⅰ章、イラン、イラクにおいて近年見られたカンントリーリスクの発生状況、及び日本企業の両国への進出状況を、マクロ的に把握した第Ⅱ章、日本企業のカントリーリスク管理について問題提起を行なった第Ⅲ章、問題提起に沿って実施した調査の結果をまとめた第Ⅳ章、それを基に調査結果の分析を行なった第Ⅴ章、そして上記第Ⅲ章で行なった問題提起と、第Ⅳ、第Ⅴ章で説明した調査結果及びその評価とのすりあわせを行ない、若干の提言を行なった第Ⅵ章から構成されている。

以上のような研究の結果、私の得た結論は、次のように要約することができる。

1. 日本企業において実施されているカンントリーリスクの予知、及び評価体制は、組織及び手法の点から見て、未だ不十分である。
2. 日本企業においては、カンントリーリスクの評価結果を、マネジメントによる意志決定に、有効に結びつけることは、未だなされていない。
3. しかし近年にみた、イラン、イラクでのカンントリーリスクの発生は、日本企業の経営において、上記1.及び2.の体制の整備上、若干の改善をもたらした。